

鳥信 WEB 版 2021 年 06 月号

〈筑後エリア〉

*4月11日 ノビタキ・久留米市合川町河川敷 野田敦子

黒いノビタキがいたよ、と電話があったので、高良山の探鳥会のあと合川町河川敷に行きました。ノビタキの雌と、喉の黒いノビタキはいましたが、頭や背中は黒と茶のまだらで黒くはありません。これから黒くなるのでしょうか？

*4月12日 イソヒヨドリ・久留米市東櫛原町 竹下

久留米大橋の南側・スポーツデポの近くで夕方7時過ぎに鳴いている青い鳥を見ました。

*4月15日 ノビタキ*1♂、ハシボソガラスの獲物・久留米市合川町河川敷 野田敦子

黒くなったノビタキの雄をようやく見つけました。河川敷の草が伸びて、つま先立ちしても遠くが見えず、鳥が見つけにくくなりました。ホオアカやセッカ、ヒバリ、ウグイス、ホオジロ、アトリ、アオジ、ツグミ、オオバン、ミサゴ、トビなども見かけました。

この日、驚いた事がありました。高良川の浅瀬でハシボソガラスが大きな獲物を食べていました。魚かなと思って双眼鏡で覗いたらなんと大きな鳥です。ハトのようでした。羽を抜きながらお腹をつつき、内臓を取り出して食べたのです。恐ろしい光景でした。カラスがハトを襲う事があるのでしょうか？ 帰り際、その近くから猛禽(オオタカ？)がカラスに追われ、旋回しながら飛び去りました。もしかして、この猛禽の獲物？。カラスに横取りされた獲物を取り返しに来てまた追い払われたのか等等と、いろいろ思い巡らしながら帰りました。

*4月15日 ノビタキ・久留米市藤光町 石橋信

筑後の高島さんからの連絡でノビタキ夏羽を見ました。高良山探鳥会の後、久留米の野田さんと河川敷でノビタキを見ましたが、今回は綺麗な夏羽♂でした。感動して同じ場所で3時間観察してしまいました。翌日同場所を探しましたが1日滞在しただけだったようです、本当に旅の途中のようでした。



▲ノビタキ夏羽 撮影：石橋信



▲ノビタキ夏羽 撮影：石橋信

***4月18日 オオヨシキリ・合川町河川敷 野田敦子**

この所、連日河川敷を歩いています。今日はオオヨシキリの声をあちこちで聴きました。昨日まではなかった事です。夜中に飛来するのでしょうか。夏が近いと感じます。

コホオアカを探していますがなかなか見つかりません。

***4月26日 ブッポウソウの飛来 八女市矢部村 松富士将和**

矢部村の栗原さんから「ブッポウソウが1羽飛來した」との連絡がありました。

例年は、5月の半ばなので、今年は、かなり早い飛來です。

もう一羽が来て、2羽になつたら、また連絡を頂くことになっています。

今年こそ、早く2羽になって、ヒナが育ってくれると良いですが・・・

***4月28日 クロツグミ・広川町一條 石橋信**

高島さんから教えてもらいクロツグミを見ました、クロツグミは支部探鳥範囲の所数力所で、昨年秋の移動時や春の移動時に見ています。

クロツグミは高山で夏見られる鳥と思っていましたので、いずれの場所でも驚きの瞬間でした。



▲クロツグミ雌 撮影：石橋信



▲クロツグミ雄 撮影：石橋信

*5月3日 キマユムシクイ・広川町一條 石橋信

広川町一條でムシクイを見ることが出来ました。初めて見たので種の判定に自信が無く、わくわくしながら本や、インターネットのムシクイ類の画像を調べました。



▲キマユムシクイ 撮影：石橋信

解説）この画像から二本の翼帯が明瞭ですのでキマユムシクイと判断しました。似ているカラフトムシクイでは頭央線がはっきりしていることや、腰の黄色が目立つので、木々の間を飛び回っている場合、まずそこに気づくと思います。さらにレアなムシクイ類もいますが、渡来の可能性から除外してよいと思います。（池長）

*5月7日 ブッポウソウと矢部村の野鳥 江口浩喜

今日、休暇を取っていたので、日向神にブッポウソウの確認に行ってきました。

雨の中、西園橋のいつもの電線に、2羽が寄り添うように止まっていました。

雨が上がると、2羽は活発に電線付近を飛んでは止まりを繰り返していました。

笹又橋や巣箱を確認したのですが、他にブッポウソウは確認できませんでした。

その後、大仙公園に行って、アオバト、コゲラ、アオゲラ、カケス、ヤマガラ（巣）ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、キビタキ、オオルリ、カワラヒワ、イカルを確認しました。



▲雨の中のブッポウソウ 撮影：江口浩喜

*5月8日 古処山の鳥たち 野田(美)

古処山に登ってきました。あいにくの天気で霧がひどく、8合目から先はあきらめて引き返しました。それでもオオルリ、ミソサザイがかわるがわる現れて美声を聞かせてくれ、クロツグミやアカシヨウビン、ツツドリの声も確認できました。

6月に古処山探鳥会を開催してほしいとの声がありましたが、昨年の豪雨で7合目と8合目の間あたりの登山道が崩れており（写真参照）、集団で登るのは危ないと判断で探鳥会は開催しませんが、登山に慣れた方は大丈夫と思いますので気をつけて登ってください。5/8 も一般的の登山者の方が10組くらい登っていました。また、5、6合目付近まででも十分鳥の声は楽しめますし、運が良ければアカシヨウビンの姿が見られるかもしれません。

（観察できた鳥）ミソサザイ、オオルリ、カケス、ヒヨドリ、キジバト

（声のみの鳥）クロツグミ、アカシヨウビン、ツツドリ、アオバト、イカル、コゲラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ハシブトガラス、大型キツツキ、ソウシチョウ



▲崩れている古処山の登山道 撮影：野田(美)



▲ミソサザイ 撮影：野田(美)

＜近隣エリア＞

*4月29日 佐賀市東与賀干潟周辺の野鳥 野田(美)

29日はあいにくの雨模様で、有明海水鳥調査に参加された皆様はお疲れさまでした。また、東与賀干潟探鳥会は中止となり残念でした。

当方、有明海水鳥調査の後、柳川から小郡まで帰る途中（？）ということで、雨の中、東与賀干潟まで行ってみました。

現地に着いたときは雨が降っていましたが、内陸の水溜りの側にトウネンが20数羽休んでおり、その中に混じっていたヨーロッパトウネンやオオメダイチドリ、ヒナを連れたシロチドリなどを車の側で観察するうちに雨も止みました。

干潟はすでに引き潮で短時間しか観察できませんでしたが、ハマシギ、ダイゼン、ムナグロ、キヨウジヨシギ、ソリハシシギ、ウズラシギ、オバシギ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、ダイシヤクシギなどが観察できました。

帰る前に干拓地を周ってみると、オオヨシキリが気持ちよさそうに囀っていました。

(補足 野田(美))

ヨーロッパトウネンは写真中央の1羽のみで、まわりはすべてトウネンです。トウネンは夏羽、または夏羽に換羽中で大分赤みが強いのですが、ヨーロッパトウネンはそこまで夏羽になっていません。

この写真での識別ポイントは、まわりのトウネンに比べて小柄で、体が横長でなく、嘴が細長いこと、三列風切（腰のあたりの羽）の羽縁が赤褐色なこと、初列風切が尾羽より突出していることなどでしょうか。残念ながら背中のV字ラインは確認できません。



▲トウネンとヨーロッパトウネン（中央の個体） 撮影：野田(美)



▲オオメダイチドリ 撮影：野田(美)



▲オオソリハシシギなど 撮影：野田(美)



▲オオヨシキリ 撮影：野田(美)

*5月1日 筑紫野市山神ダムの野鳥 野田(美)

朝から雨でしたが、お昼前にあがったので、山神ダムに出かけてみました。

先週まであちこちにいたキビタキが全く現れてくれず、コサメビタキが2羽現れた他は、センダイムシクイのさえずりが2声聞こえました。オオルリは高い梢で鳴いており、なかなか姿が見えなかつたのですが、1羽だけ近くに寄ってくれました。

このオオルリの雄は、終始、ニシオジロビタキのように尾を上げては下げる動作を繰り返し、鳴き声もニシオジロビタキ類似のジジッ、ジジッという鳴き方を繰り返し、しばらくして現れた雌のオオルリと林の奥に消えていきました。右脚には金属製の足環がついており、何やら文字が刻まれているようですが、判読はできません。足環がつけられた場所がわかると面白いのですが・・・。



▲コサメビタキ 撮影：野田(美)



▲オオルリにつけられたリング（矢印） 撮影：野田(美)



▲リングのついたオオルリ 撮影：野田(美)

＜トピックス＞

1. 「人工巣へのツバメの営巣」 寺辻亜紀

ツバメが、勤務先の、去年私が設置した手作りの巣で卵を温め始めしていました。GW7日の間休みでしたのでツバメが来ていることは知らず、その間にツバメは私の巣の縁を少し上乗せして修正して、巣の中も藁や羽毛などを集めて敷いたと思いますが、7日の間で卵を温め始めるまでしていました。巣の場所の決断から抱卵開始までとても速いと思いました。

私の手作りの巣を使ってくれていることが驚きで嬉しかったので、お知らせしました。黒い頭がぱっこり見えているので抱卵しているのが分かると思います



▲人工のツバメの巣と設置状況 撮影：寺辻亜紀



▲人工巣でのツバメの抱卵 撮影：寺辻亜紀

2. 「ブッポウソウの巣箱への営巣」 松富士 将和

今年はブッポウソウの飛来が早く、矢部村の栗原浩暢さんから電話頂いたのが4月25日(日)の1羽の飛来で、5月7日(金)には2羽の飛来が確認されていました(上の記事参照)。

その後、もっと嬉しい情報が5月19日(水)にありました。なんと、巣箱に出入りしているという情報です。(但し、この情報が広まると、カメラマンが押し寄せ、巣箱に近づいくことで営巣放棄に至るのではないかとの恐れがあり、栗原さんと、矢部支所(江田支所長)に電話して「巣箱に近寄らないで」の看板を立てて頂くことになった後に公開することにしました。)

江口さんと私は5月22日(土)に、野田(美)さんが23日に確認に行きましたところ「やはり数人のカメラマンが巣の近くで撮影している」状況でした。

栗原様、江田様には、厚く御礼申し上げます。

観察状況

5月22日 江口浩喜

日向神にブッポウソウの確認に行ってきました（11:20～13:00まで観察）。

巣箱に入ったということだったので、西園橋の手前で右折してすぐのところで観察しました。

ブッポウソウは、巣箱に近い電線に2羽止まっていました。

11:30に1羽が巣箱に入り、その後2羽で電線に止まっては飛び立ち、時々求愛給餌を行っていました。

12:30に再度巣箱に入るのを確認しました。

5月23日 野田(美)

日向神ダムにブッポウソウの観察に行ってきました。

10時過ぎごろ現地に着いた時には、巣箱に比較的近い場所でカメラマン2名が写真を撮っており、そのためか2羽のブッポウソウは西園橋付近にいて、昨年営巣した橋梁の穴に入ったりしていました。

カメラマン2名（男性2名、北九州から）がこちらにみえましたので、昨年の営巣失敗の件と、そのため今年は巣箱に興味を持っているので巣箱から離れたところで撮影して欲しいとお願いしたところ、了解していただきました。（巣箱を利用しているのはご存じのようでした。）

その後、2羽が巣箱にとまり、1羽ずつ巣箱に入りました。1時間弱観察しましたが、5回巣箱に入りました。一度だけ、1羽が巣箱の中から古い巣材（？）をくわえて出て来て、電線に止まってから捨てました。

途中、2羽寄り添って電線に止まり、1羽がしきりに寄りかかり今にも交尾しそうな雰囲気でしたが、もう1羽はつれなく、結局交尾は見られませんでした。



▲巣箱に来たブッポウソウのペア（2021年5月23日） 撮影：野田（美）

*お願い：ブッポウソウの営巣時はとても敏感で営巣放棄する恐れがありますので長居せず、50m以上離れて、そっと観察ください！